

文化・芸術

「GIRLANDWIN EGGLASS」

制作年不詳、鉛筆・紙
43・0^{cm}×35・7^{cm}
個人蔵（大川美術館寄託作品）

国吉康雄（1889～1953年）

1906（明治39）年、17歳で単身渡米した国吉康雄は、大恐慌から太平洋戦争へと、米国社会が大きく揺れ動いた時代、米国を代表する画家の一人として活躍しました。その作風は独自のヒューマニズムを貫いています。

薄暗いカフェの片隅でしようか。柔らかな筆致は、女が醸し出す孤独なたずまいを見事に表しています。そこには、日系人として生きたこの画家自身の心情も投影されているかのようです。

1930年代、国吉は、踊り子や生活に疲れた女たちを数多く描きました。本作は、暗色の色調によるほぼ同構図の油彩「待つ」（37年、個人蔵）のための素描と推測されます。（小此木）

《名画の扉》

大川美術館常設展示「ベン・シャーン、野田英夫、国吉康雄」から

